

国際交流

1997年 9月30日創刊
 2021年 3月31日発行(第43号)
 二松学舎大学国際交流センター
 〒102-8336東京都千代田区三番町6-16
 Tel : 03-3261-5751

◆目 次◆

①国際交流センターの移転.....	1	⑤2019年度「日本語・日本学特別プログラム」の修了生による報告 徐 敏 (中国・嘉興学院)	10
②二松学舎大学と海外の大学との協定締結.....	2	⑥2019年度「日本語文化特別プログラム」の修了生による報告 姜 重輝 (中国・鄭州大学)	11
③2020年度派遣留学修了報告		⑦「海外オンライン交流会」の報告	12
文学部3年 荒井 瞳子 (韓国・成均館大学校)	3	⑧国際交流センターからのお知らせ.....	12
文学部3年 石原 桃子 (韓国・成均館大学校)	4		
文学部3年 前原 花奏 (オーストラリア・サザンクロス大学) ..	6		
④2020年度交換留学生修了報告			
游 承翰 (台湾・中国文化大学)	8		
李 筱南 (中国・周口師範学院)	9		

国際交流センターの移転



5号館外観

2020年12月15日より九段校舎5号館5階に移転し、従来の「留学」
 「国際交流」の業務に加えて「外国語」に関する業務を開始しました。



国際交流センター

二松学舎大学と海外大学との協定締結

2020年度はフランスと中国にある大学と協定を締結しました。

リール大学 (フランス)

ボルドー・モンテーニュ大学 (フランス)

江西師範大学 (中国)

四川外国語大学 (中国)

山東財経大学 (中国)

河北民族師範学院 (中国)

寧波工程学院 (中国)

浙江財経大学東方学院 (中国)



リール大学(フランス)

リール大学は、1854年に設置され、世界大学ランキング(QS World University Rankings 2014)で芸術、人文学の分野ではフランス国内第5位にランクインした大学です。



ボルドー・モンテーニュ大学(フランス)

1971年に創立されたフランス南西部のボルドーの近郊、ペサックに位置する文学、言語、美術史、考古学、情報・コミュニケーション科学と多岐にわたる総合大学(学生数約15,000人)です。



江西師範大学(中国)

中国江西省に位置、約47,000人の学生が在籍し、文学、歴史学、哲学、経済学、法学、管理学、理学、工学、教育学の専攻を持つ教育大学です。



四川外国語大学(中国)

中国重慶市に位置し、中国西南地区における外国語と外国人材育成および外国文化、国際経済、国際問題研究など多岐の研究分野にわたる同地域の重点総合大学(学生数約15,000人)です。



山東財経大学(中国)

山東省人民政府に属し財政部、教育部が共同運営する中国有数の経済学に特化した大学です。



河北民族師範学院(中国)

河北省政府と国家民族事務委員会が共同で設立し、100年以上の歴史を持つ大学です。



寧波工程学院(中国)

寧波市人民政府に属する交通工学分野において特徴的なプログラムをもつ地方大学です。



浙江財経大学東方学院(中国)

浙江財経大学の中の独立学院、浙江省の海寧市にある大学です。

2020年度 派遣留学修了報告



韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
荒井 瞳子

私は韓国の成均館大学校に1年間留学しました。留学を終えて、韓国語の実力が前より確実に伸びたと感じます。韓国に住んでいると日常会話も韓国語なので、韓国に居るだけでも韓国語の勉強になりました。

1学期は水原にある語学堂に通いながら韓国語の勉強をしました。語学堂では文法や単語、慣用句や熟語など様々なことを学びました。課題はテーマに沿った作文を書くことが多かったです。2学期はソウルにある人文社会科学キャンパスで勉強をしました。私は主に韓国の歴史や韓国文学について学びました。

成均館大学校はソウルの大学の中でもレベルが高いので勉強面についていけるか不安だったのですが、自分



慶州月精橋

なりに納得のいく結果で終えることができました。韓国のカフェでは勉強している学生が多く、そんな勉強している姿に影響を受けました。成均館大学校の図書館でも夜遅くまで試験勉強をする学生を見かけたりしました。そんな姿に影響を受け、私も韓国のカフェや図書館などで勉強をしたりして、留学中が大学生活の中で一番勉強したように思います。

韓国留学を通して多くのことを学ぶことができました。勉強面ではもちろん精神面でも成長できた1年でした。コロナのためほとんどオンライン授業で、学校に行ったのは5回ほどでしたが効率よく勉強することができました。

「日本現代社会と東アジア」という授業では発表をしたり、韓国の学生とオンライン上で討論する機会がありました。成均館大学校の学生と意見交換ができ、有意義な時間になりました。

「比較文学文化論」という授業では毎回課題がありました。学生の課題を教授が毎週授業時にフィードバックしてくれて、他の学生たちがどんな考えを持っているのかわかることができ興味深かったです。

「現代文学史」の授業でもほぼ毎回課題がありました。「現代文学史」の授業では文学作品と共に歴史も一緒に学ぶことができ、有意義な時間になりました。



成均館大学校の水原キャンパス



成均館大学ソウルキャンパスにて

「現代詩の理解」では詩について様々なことを学びました。毎回課題があり、詩についての解釈や自分の考えを書く機会がありました。正直詩を理解するのは難しかったですが、授業を通して詩についての興味がより湧き、好きな詩を見つけることができました。

「韓国歴史の理解」では韓国の歴史を簡潔に学びました。韓国の歴史における重要な事件などを学べる意味のある時間でした。

「韓国史概説」でも歴史について学びました。中間はレポート、期末は試験でした。「韓国史概説」では韓国歴史の理解より細かいところまで学びました。

私は6科目受講したのですがどの授業も初めて学ぶことが多く、有意義な時間になりました。留学を通して韓国語に自信を持つことができ、卒業後は韓国語の使える職業に就きたいという気持ちが強くなりました。前より自信はついたもののまだまだ学ぶこともあると思うので、これからも勉強を頑張っていきたいと思います。留学を許してくださった両親や留学の機会を提供してくださった大学がいたからこそ韓国でたくさんのことを学ぶことができました。これからも学ぶ気持ちを大切にし、新たなことに挑戦していきたいと思います。



韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
石原 桃子

全体の振り返り

1学期は、成均館大学校の語学院で韓国語を学びました。コロナウィルスの影響で最初から最後までオンラインで授業が行われたため、先生や他の学生とコミュニケーションを取る際スムーズにいかない場面が多くありましたが、分からないことはメッセージアプリなどですぐに聞ける環境ではあったため学習面に関しては問題ありませんでした。語学院の授業では様々な国の生徒が話す韓国語に触れることができました。また、初めて韓国語しか使えない状況に立たされることになり、自分が思っていたより韓国語でコミュニケーションを取れるということに気づいたと同時に、語彙力が足りないことに気づかされ、単語を覚えることに重点を置いて勉強しました。1学期を終えてからは、耳が慣れたからか一番苦手としていたリスニン



晩秋の南怡島

グ力が上がったように感じました。

2学期は、韓国人学生たちと同様に正規授業を受けましたが、やはりコロナウィルスの影響を大きく受けました。ほとんどの授業がオンラインで行われたため、講義室に行く機会が少なく非常に残念でしたが、課題に取り組む際にはよく学校の図書館を利用しました。成均館大学の図書館はとても広く、本の貸し出しはもちろん、閲覧室やパソコン室などを頻繁に利用し、勉強に有効活用することができました。また、現地学生・教授たちとの交流が文面上でしかできなかったことや、ルームメイトたちが韓国語を話せなかったことにより直接韓国語を話す機会が少ない中、どう韓国語を積極的に使っていくかが課題だったように思います。感染症の影響が無ければ、もっとコミュニティの輪を広げて様々な人と出会い、韓国語の実力も伸ばせたのかなと思っています。同時に普段は経験し得ない韓国の保健所でのPCR検査、隔離生活を送り、貴重な体験をしたようにも思えます。

気づいたこと、感じたこと

今回の留学において一番印象的だったのは2学期の正規授業です。私は韓国の歴史に関する授業を二つ履修しました。授業を聞いていく中で、自分が中学校や高校で習った内容がたくさん出てきましたが、日本と韓国で教え方が異なることが印象的でした。自分が日本で習った内容と韓国で習った内容とで差異があり、韓国で学ぶ内容は、日本に対する批判的な表現が多かったように感じました。日韓の歴史教科書問題を肌で感じるようでした。この経験から紛糾した日韓の歴史認識問題において、日韓両国の歴史を学ぶ学生たちは自分が学校で学んだものが全てと考えずに、ネットリテラシーを鍵に自



ルームメイトが開いてくれた誕生日会



戦争記念館

ら様々な情報に触れていくことが大切だと考えました。一方、「日本現代社会と東アジア」という授業では、現代の日本社会に焦点をあて様々なテーマで授業が進行されたのですが、韓国人学生の日本社会に関する知識に驚かされました。当然日本に関する授業のため、あらゆる理由で日本に関心が深い学生たちが集まっている訳ですが、日本人の私が知らない情報を知っていたり、日本に対する自分の意見を根拠と共にしっかり持っているように感じました。当授業ではグループに分かれ一つのテーマに沿って討論を行うことが何度かありました。そのテーマの中には日韓における敏感なテーマもあり、韓国人学生に自分の意見を主張する際は戸惑いや緊張感もありましたが、貴重な経験になったと思います。

私は、学ぶということに関して自分の世界が広がったのではないかと思います。高校時代は国際コースに在籍し英語や中国語に多く触れ、本学では韓国語を専攻していますが、私の中で「勉強する＝語学を習得すること」であったように思います。ですが、今回の留学でそれが変わったように感じます。そのきっかけは現代文学史、比較文学文化論という授業を履修したことです。これらの授業では、多くの韓国文学作品に加え日本文学作品、世界文学作品に触れたのですが、文学部として恥ずかしながら今まで語学にしか関心がなかった自分が、小説や詩といった文学に対して興味を持つようになりました。文学作品には作家が置かれていた環境や当時の時代が大きく影響します。文学作品を読むことによって、同時に

歴史的背景を学べるのがとても面白かったです。そう
いった中で作家や歴史に関する知識が増えていくこと
にも喜びを感じました。自分の中の関心を寄せて学びたい
と思う分野が増えたのです。

日本では同じ科目を専攻する友人が身近にいて授業も
日本語で聞きますが、留学先では当然ながら、授業を履
修するところからテストまで全てが外国語です。した
がって、以前より自然と一日の机に向かう時間、学習量
が増え、勉強に没頭するようになります。すると、知識
を増やすことへの楽しさや嬉しさをより一層覚えるよう
になりました。また、今回の留学生活ではほとんどの事
を自分で解決しなくてはならない場面が多くあったよう
に思います。混乱することや戸惑うことも多く経験する
中、自分の力で最後まで韓国留学を成し遂げたことに
よって以前よりも自分に自信が付ききました。



オーストラリア サザンクロス大学

文学部 国文学科3年
前原 花奏

この度、二松学舎大学の派遣留学
制度を利用しオーストラリアに1年
間の長期留学を経験しました。元々英語が得意なわけ
ではありませんでしたが、充実した派遣留学制度、国際交
流センターの方の手厚いサポートが魅力的だったため、
希望しました。

オーストラリアに行った当初は、英語もあまり分ら
ない状態で不安定だったこともあり、当時滞在していた
ホストマザーと折が合いませんでした。3月ごろから新
しいホストファミリーへ移動し、授業もオンラインに変
更になるなど、環境が大きく変化しました。

コロナウイルスが流行していたのにも関わらず留学を
続行することができ、非常に運がよかったと感じていま
す。授業はオンラインでしたが、現地での生活を経験す
ることができ、英語を使っていろいろな人と話す機会が
多少なりともあり、留学を完遂できたことにとても喜び
を感じています。

留学を通し、英語力は劇的に向上しました。英語がま
だ分からない留学当初は、誰かが言った英文を丸覚えし
て、話すときには頭の中で文を作ってから話していたた
め、会話のキャッチボールがスムーズにできませんでし



ブリスベンの街でシティホッパーに乗船

た。とっさに言いたいことが言えなかったことはとて
も悔しく、英語を話せるようになりたいというモチベー
ションにもつながりました。

留学後期では、今までと違い、会話をする際に頭で文
を考えてから話していないことに気が付ききました。日本
語を話す際と同様に、すらすらと言いたいことが言えた
のでネイティブの友人とも問題なくコミュニケーション
をとることができ、「相手が何を言っているのか分から
ない」という状況はほとんどありませんでした。

6月から始まった大学の授業は本当に大変でした。遠
慮してしまって分からないことをとっさに質問できな
かったこともあっただけでなく、誰も私を「英語が不自
由な留学生」として認識していないため、授業について
いくことに精一杯でした。予習、課題には膨大な時間を
かけ、苦勞しましたがその経験から得られたものは大き
いと感じています。

私は短期留学ではなく長期留学をして本当に良かった
と感じています。英語力の向上を実感できたのは6カ月
を過ぎたところで、語学は一朝一夕で身につくものでは
ないと実感しました。短期留学では現地の良いところ、美
しい面だけを見ることで精一杯ですが、長期では現地
の人の声を直接聞き、良くも悪くもさまざまな面を知る
ことができ、勝手に日本の文化や日本人と比べてショッ
クを受けてしまうこともしばしばありました。どちらが

良い悪いではなく、こんなにも違うことがあるのかとたくさん発見をしたのと同時に、世界にはまだまだ私が知らないことがたくさんあるのだと学ぶことができました。楽しいことばかりを経験できるわけではない長期留学を通して、私はとても成長できたと感じています。強くなったという表現の方が正しいかもしれません…。多少のことでは動じず、今後どのような壁に直面しても自分の力で乗り越えられる自信が付きました。

このように、留学を成功という形で終わらせることが

できたのは国際交流センターの方、その他関係者の方のおかげです。ありがとうございました。私がサザンクロス大学での長期留学生第一号とのことで、多少不安はありましたが、何もトラブルが起きることがなく1年間過ごすことができました。私が留学中に経験した大変なこと、苦勞したことさえもすべていい思い出で、人生で一番充実した1年間だったといえます。今後、私のように留学をしたいという方がいらっしやれば、ぜひ経験してほしいと強くお勧めします。



ブリスベンにある有名なフィッシュアンドチップス



仲良くして下さいだったホストマザーの家族の皆さま



カラピン・ワイルド・サンクチャーリーで蛇と私



クリスタル・キャッスルにて

2020年度 交換留学生修了報告



忘れられない日々

台湾・中国文学大学 游 承翰

学生のあいだに日本での生活を体験したいと考えておりましたので、この機会に留学しようと決めました。半年間の留学生生活を振り返りますと、留学の良さをあらためて実感しました。たとえば、多種多様な授業による充実した学生生活です。私は留学生ですが、文学部に所属していたことで、様々な授業を受けることができました。特に日本語学概論という日本人の学生と一緒に受ける授業がとても面白かったです。その授業はただ面白いだけでなく、現代日本語の構造や文法、類語の違いなども詳しく説明していただき、日本語の勉強にも、大学院の試験の準備にも非常に役にたったと思っています。

次に、サークルで出会った友達です。

新学期が始まったばかりの時には、なかなか友達がいなかったのですが、友達を作ろうとしました。すると、中国語を学ぶサークルがあることを学生支援課から聞き、そこに入部しました。サークルでは中国語を教えたり、おしゃべりしたり、発表の準備をしたりして、大変楽しい時間を過ごすことができました。



クリスマスパーティー



仮装大会



一人旅 in 奈良

そして最後に、今までお世話になった皆様にお礼を申し上げます。半年というあっという間の時間でしたが、皆様のおかげで素敵な思い出ができました。

また機会がありましたら、皆様にぜひ会いたいと思っております。すぐ日本に行きますから、また会いましょう。



留学感想文

周口師範学院 李 筱南

大学の4年生の時、私は日本の二松学舎大学に来て、半年間の交換留学生生活を行いました。この間、たくさんのすばらしい思い出がありました。

日本に着いてすぐに、先生が私達に生活と各方面の内容を紹介していただき、私達にできるだけ早く日本生活になじめるように心配りをいただき、日本人の優しさを感じました。

学校では世界中からの留学生がおり、いろいろな国の文化を知ることができ、次第に彼らとうち溶け込むことができました。授業のない休みの日には、友達と一緒に東京タワーやディズニーランドなど、地元の有名な観光地を見学しました。ハロウィーンの時には、自分の好きなアニメのキャラクターに会ったり、年始には浅草寺におみくじを求め出かけ、みんなと一緒に今年の幸せを祈って、より一層絆も深くなりました！



浅草寺社殿前



ショッピング中

学校の先生の中では、清水道子先生が一番好きで、彼女は特にユーモアがあって、私達に多くの日本文化についての知識を教えてくれただけでなく、すべての学生と友達のように付き合っていていただき、宿題の添削や、私が理解していない問題の多くを助けていただきました。

二松学舎大学の学生はとても優秀でした。ここで多くのものを学び、先生やクラスメートから助けていただいた、このすばらしい思い出が忘れない。未来でも一生懸命頑張ります！



友人とゲームショー

2019年度 「日本語・日本学特別プログラム」の修了生による報告



二松の皆様、ありがとう！

中国・嘉興学院 徐 歓

留学して一年。わたしが一番思っていることは、「月日の経つのは、あまりにも早い！」ということです。私はすでに日本で四季を過ごしております。来た時はまだ桜満開の季節。この一年間、私はとても充実していました。二松学舎大学では、日本人のみんなといっしょに、興味深い授業をたくさん受け、新しい知識をいただきました。また、いろんな日本人の先生たちと知りあい、一緒に留学している友達とも、とても仲良くなりました。



長崎旅行



年末交流会

私が大好きな日本語の芦田先生と金子先生、本当にありがとうございました！

いつも元気で、いつも気にかけてくれる塩田先生、ありがとうございました！

大学院に進学するために、たくさんのアドバイスをくれた松本先生、ありがとうございました！

毎日困ったことがあったときに、優しく問題を解決してくれた、国際交流センターのみなさん、ありがとうございました！

日本に来て初めて行った活動のひとつに、アルバイトの経験がありました。バイト先の皆さんは家族みたいな存在で、すごく親切で優しくしていただきました。私はいつも皆さんのお世話になりながら、忙しいけれど、1分1秒も本当に楽しく過ごせました。

貴重な日本での留学のこの時間を大切にしなければと思い、この目で中国と日本の違うところを発見したいと思っていましたが、同じ留学生のエンソウさんが計画してくれた、関西への旅行をしました。

そして、江藤先生です。夏休みの間に、江藤先生は私たちを長崎県へ旅行に連れて行ってくださいました。先生が子どものころに通っていた道を歩いたり、長崎のいろんなところを案内してくれました。私たち留学生だけでは行くことができない旅を体験できたことを本当に感謝しております。

そのほかにも、休みを利用して、沖縄や北海道にも行



熱海旅行

きました。私の旅行チーム：玄ちゃん、浩輔、いつき、カツちゃん、えんそう、春ちゃん、小林君、阮振峰、Keke、王也、ありがとうございました！

日本でのこの1年間の生活は、本当に楽しくて、毎日とても幸せでした。

今回の留学で、私はもっともっと日本が好きになりました。帰国した後も、頑張って日本の大学院に入って、また留学するつもりです。この特別なプログラムを用意してくれた二松学舎大学のみなさま、この一年間、本当にありがとうございました！

2019年度 「日本語文化特別プログラム」の修了生による報告



感謝をこめて

中国・鄭州大学 姜 亜輝

私は二松学舎大学の交換留学生として参りましたのは、2019年9月のことです。このキャンパスに足を踏み入れた時の感動は、今でも鮮明に覚えています。国際交流センターの先生方、大学のガイダンスや授業の選択などの様々な手伝いをくださっていただいたからこそ、私たちの留学生活が順調に送ることができました。大学で授業が始まると、先生方はときに厳しく、ときに優しくご指導していただきました。専門の授業ともなると、日本人学生と同じスピードでついていくのは、留学生にとってはかなりハードでしたが、常に私たちの理解具合を見ながら進めてくださいました。先生方、どうもありがとうございました。

それと、留学生活を支えてくれた友達にもお礼を述べたいと思います。一緒に飲み会にも行きました。また、

クリスマスパーティー、忘年会、送別会も開いていただきました。本当にありがとうございました。

帰国後は、少しでも皆様から受けた御恩がお返しできるよう、微力ではありますが、中日にかけ橋となるべく、頑張っていきたいと考えております。



ビール工場見学



学生寮の前



寮のランチ

「海外オンライン交流会」の実施報告

日本政府の新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、来日できない留学生がいます。そのため、来日していない外国人留学生および新入生の外国人留学生を対象に、留学生間のネットワークの構築を目的に、オンライン交流会を実施しました。

多くの留学生から来日できずに残念という意見がありました。今後の再入国に関する情報も共有するなど国際交流センターができるサポートを伝えました。

本学の国際ボランティアサークル「ブルーバード」のメンバーによる「日本」を紹介するプレゼンテーションや、厚生労働省のハローワークの職員による就職説明会を実施しました。

オンライン交流会を通じて顔や表情を見て、留学生たちが健康的に過ごしている状況を確認できました。

- 第1回海外オンライン交流会 【2020年6月15日(月) 12:00-14:00】
 第2回海外オンライン交流会 【2020年7月17日(金) 12:30-13:30】
 第3回海外オンライン交流会 【2020年9月9日(水) 12:30-13:30】
 第4回海外オンライン交流会 【2020年11月13日(金) 12:30-13:30】
 第5回海外オンライン交流会 【2021年1月22日(金) 12:30-13:30】
 第6回海外オンライン交流会 【2021年3月24日(水) 13:00-14:00】 総参加者数：117名



国際交流センターからのお知らせ

本学では、英語圏、中国語圏、韓国語圏への短期海外語学研修や派遣留学の機会を提供しています。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp